

2010年の足利のありようを考える

株式会社開倫塾

代表取締役 社長 林 明夫

1. 道州制導入後を考え、「足利を北関東州の州都にするための基盤整備」を。

- ①市町村合併の動きに乗らないのであれば、足利市としての独自の道を歩まねば、激しい都市間競争の間で陥没してしまうことは明白です。では、どうしたらよいか。
- ②昨年、12月に蓮袋館で開かれた内外情勢調査会足利支部例会での吉谷宗夫足利市長の「足利を北関東州の州都にしよう」との発言は素晴らしいもので、私は全面的に賛成します。
- ③私は、体制を整え、6年間をかけ、「足利市を北関東州の州都にするための準備作業」を吉谷市長の強力なリーダーシップのもとに全市一丸となってスタートさせるべきと考えます。
- ④道州制が導入され、栃木・群馬・茨城、場合によっては埼玉が一つの州になり、七百万から千四百万人位の「北関東州」になったとしても、首都であるならば、人口の多い少ないは余り問題にならず、都市の内容つまり質の充実が課題となります。
- ⑤足利学校の伝統を限りなく受け継ぎ、「自然と精神」を最大限尊重し、極めつけの「デザイン」と「戦略」構想研究のメッカになるような「現代型都市」をめざすべきと私は考えます。

2. 「教え方日本一の足利づくりを。」

- ①小学校英語教育の教育特区を足利市が申請し、取り組みがスタートしたこともまた素晴らしいこととあります。この動きを、足利におけるすべての教育に広げ、最終的には「教え方日本一の足利づくりを」めざすべきです。
- ②私は、本当の意味の教育改革とは、先生と言われる人が「日本一、世界一の教え方」をめざし、教え方を日々これ改善することを足利をあげて行うことだと確信します。
- ③「教え方日本一」をめざすためには、先生と言われる人自身が、教える内容の本質的な理解をめざす必要があります。例えば、英語の先生であるからには、たとえ小学生を教える場合にも、英字新聞はスラスラ読め、英語のディスカッションに自由に参加したり、英語でのプレゼンテーションも自由にできなければなりません。ピアノがひけない人はピアノの先生になれないのと同じです。なぜなら、ピアノのひけない人からいくらピアノを習ってもピアノはひけるようにならないからです。「教え方」を云々(うんぬん)できるのは、教える内容が十分教え手に身についてからです。
- ④しかし、「教え方」について言えば、日本の教員養成課程では、教える内容についての教育はなされても、教育実習以外教え方についての十分な教育はなされていないようです。公立学校の教員採用試験でも、学力や人物の試験はなされても、教え方の実技試験はなされていないようです。採用後の研修でも初任者研修では多少教え方の指導は受けても、二年目以降は「教え方」を究めるための研修はなされていないようです。

何年か教員を経験してから進学する大学院の修士課程でも、教える内容が中心で教える方法に

ついて大学院レベルで研究する人は日本では少ないようです。余程ひどい教え方をする人のみが、教え方の再研修を受けるにすぎないようです。

- ⑤このような現状なので、足利の教育レベルを一気に日本一の状態にもっていくことは簡単です。つまり、日本の自治体においては「教え方」に真正面から取り組んでいるところは全くないので、すから、「教え方日本一の足利づくり」を一早く宣言し、市長が強力なリーダーシップの下で足利市に存在する先生とよばれているすべての人の教え方を日本一のレベルにまでもっていけるような環境整備をすればよいだけです。
- ⑥例えば、「小学生の英語教育」で構造改革特区が通ったのであれば、小学校の英語の先生は教え方が世界で最高の先生を採用すべきです。その先生に小学生を担当させるだけでなく、足利市の小学校、中学校、高校、専門学校、短大、大学、民間教育機関、公民館などで現在英語を教えている先生に対して「教え方」の技術向上のための夜間や週末、休日、長期休暇中を活用した特別コースを無料で開講すること。世界で最高レベルの教え方を身につけた先生による英語の先生のための専門コースが毎日のように開かれる状況を市長の強力なリーダーシップで実現することを提言いたします。
- ⑦他の教科や、教室経営、学校経営、他の教育機関の経営についても同様で、「教え方日本一」をめざすことが足利の教育レベルを一気に日本一にまでおし上げる唯一の方法と考えます。予算もほとんどかかりません。生徒のいない時間に空いている教室を使うだけですから。

3. 「いつまでも若々しく生きる足利づくりを」

- ①人生にとり最も善いことは、いつまでも若々しく生きることです。具体的には、足利に住むすべての市民が実行することにより、医者にかからなくて済む身体づくりをすること。死ぬ直前まで元気に働き続け、一円でも税金を支払えるような身体づくりをすること。(勿論、必要な場合は、お医者様や福祉施設のお世話になるべきことは当然です。)
- ②そのためには、予防医学の足利市での徹底した実現が必要です。足利市長の強力なリーダーシップで、医療と福祉に関係する仕事をもつすべての専門家をまとめあげ、全市民が「いつまでも若々しく生きる」ことのできる足利の基礎を 2010 年までにつくりあげて頂きたく存じます。
- ③具体的には、ありとあらゆる領域で、医療や福祉のプロとよばれる専門家の「プロとしての仕事能力」を日本で一番にまで高めることを担当者を決め足利市として戦略を練り上げ、行って頂きたく考えます。
- ④例えば、足利市の歯医者さんの知識や技能は日本で一番であるという状態を作戦をたて、2010 年までに実現して頂きたいということです。お医者さんはもちろんのこと、柔道整復師や鍼灸師の先生をはじめありとあらゆる専門家の知識と技能を日本一の状態にどう 2010 年までにもっていけるか。
市長の強力なリーダーシップで関係の先生方の団体の御理解を頂きながら戦略をもって取り組み頂ければ必ず実現します。
- ⑤欧米で少しずつ始まった「老人科」の専門医の育成と、「老人科医院」の開設の促進も不可欠です。20 ～ 30 歳台の方と同じような診療や検査は、60 歳以上の人には不適切な場合が多いからです。

4. F T A (自由貿易協定) 締結後を見据えた足利市独自の国際化戦略を。

- ①カンクーンでのW T O 交渉破綻後、小泉内閣を挙げて本格的F T A交渉に乗り出す結果、数年後にはアジアや欧米各国との間にF T Aが締結され、国際化が一気にすすみ、足利においても、中国のW T O加盟の10倍以上の影響が予想されます。
- ②競争力の強いところはビジネスチャンスが一気に広がりますが、不足するところは、事業の縮小や清算が広まり、街全体が陥没する可能性が高まります。
- ③そこで、F T Aが大方の国と締結されるであろう2010年を見据えて、足利市の全ての企業は、企業の存亡を懸けて国際化策を今年から構じておく必要があります。同時に、足利市としても、F T A後をにらんだ産業政策を、産業分野別に策定し、万全の準備をしておく必要があります。
- ④中国のW T O加盟を読み切り十分な対策を立てられなかったために大きな影響を足利市では受けましたが、F T A後の対策については、ドロで縄をなうようなことのないように、市長の強力なリーダーシップのもとに、商工会議所はじめ各企業や、経済団体と強力に連携を強めながら対策を講じるべきかと考えます。
- ⑤具体的には、足利市におけるF T A後を見据えた「国際化戦略会議」を新年度から発足させることを提案いたします。

以上